

萩市ひとづくり構想

～新しい時代を切り拓くひとづくり～

平成30年12月

山口県 萩市

目 次

第1章 萩市ひとつづくり構想の策定にあたって	1
第2章 ひとつづくりの基本理念と目指すひとの姿	2
第3章 ひとつづくりの基本方針と施策の方向	
【幼児期】	4
1 家庭教育への支援	5
2 外遊びの推進	
3 読み聞かせや読書活動の推進	
4 芸術・文化に触れる機会の創出	
【青少年期】	6
1 可能性に挑戦するために必要な知・徳・体の育成	7
2 ふるさと学習、体験活動、キャリア教育の推進	8
3 地域教育力の向上	
4 グローバル人材の育成	9
5 市内高等学校の魅力化への支援	
【成人期】	10
1 地域コミュニティ活動の推進	11
2 社会人の学び直しの推進	
3 地場産業の担い手育成の支援	
4 起業家育成への支援	
5 生涯学習等の推進	12
6 地域共生社会づくりの推進	
第4章 構想の着実な推進に向けて	13



第1章 萩市ひとづくり構想の策定にあたって

萩市の将来像やまちづくりの方向性を市民と共有し、市民と行政が一体となって進めるまちづくりの指針として、平成30年7月に「萩市基本ビジョン」を策定しました。

萩市基本ビジョンに掲げるまちづくりを進めていくためには、まちづくりを担う人材の育成が不可欠です。

そこで、幼少期から生涯にわたるひとづくりの理念を掲げた萩市の人材育成の指針となる「萩市ひとづくり構想」を定め、市民と行政が人材育成の方向性を共有し、一体となってひとづくりを推進します。

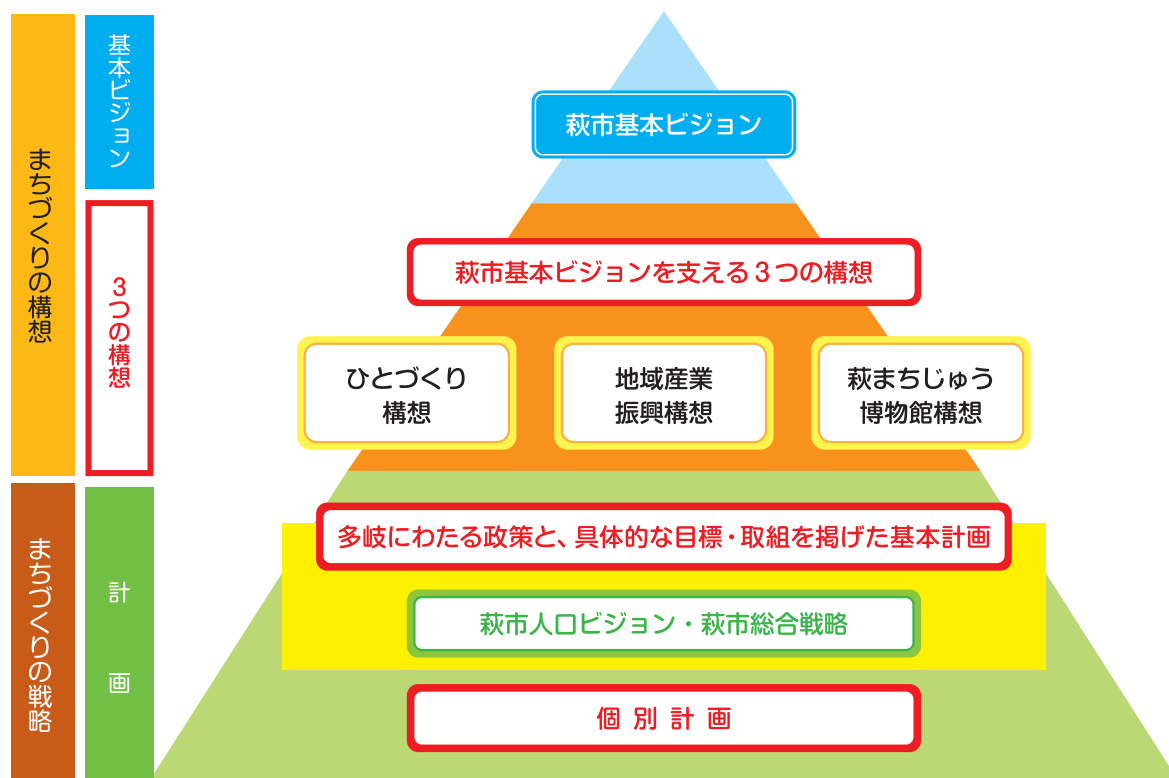
(1) 構想期間

構想期間は、2018（平成30）年度を初年度とし、2027年度までの10年間です。

なお、今後の社会情勢の変化に柔軟に対応するため、必要に応じて見直しを行います。

(2) 構想の位置づけ

萩市ひとづくり構想は、萩市基本ビジョンを支える3つの構想の1つとして位置づけられます。



第2章 ひとづくりの基本理念と目指すひとの姿

■社会の状況

我が国の人口は、平成20（2008）年をピークに減少傾向にあり、2030年にかけて20代、30代の若い世代が約2割減少するほか、65歳以上が我が国の総人口の3割を超えるなど生産年齢人口の減少が加速することが予測されます。

また、2030年頃には、第4次産業革命とも言われるIoT^{※1}やビッグデータ^{※2}、AI（人口知能）等をはじめとする技術革新が進展し、社会や生活を大きく変えていく超スマート社会^{※3}の到来が予想されるなど、私たちは今、社会の大きな変革期を迎えています。

※1 Internet of Thingsの略、センサーや機械類など“モノ”をインターネットに接続する技術。

※2 情報通信技術が進歩しパソコン等からインターネットを通して収集・分析が可能となった膨大なデータ。

※3 超スマート社会…①狩猟社会、②農耕社会、③工業社会、④情報社会に続く、人類史上5番目の新しい社会。

■萩市の状況

萩市の人口は、昭和30（1955）年の97,744人をピークに年々減少し、平成29（2017）年には48,895人とピーク時に比べ概ね半減しており、将来的には更なる人口減少が予想されます。

また、若者の流出に歯止めがかからず、少子高齢化も急速に進展しているため、地域や産業の担い手が不足し、産業活動や地域活動も年々縮小するなど、萩市の活力が低下してきています。

現状に甘んじ、このまま何も変わらなければ、萩市は将来的に消滅すら危ぶまれるほど、危機的状況にあります。

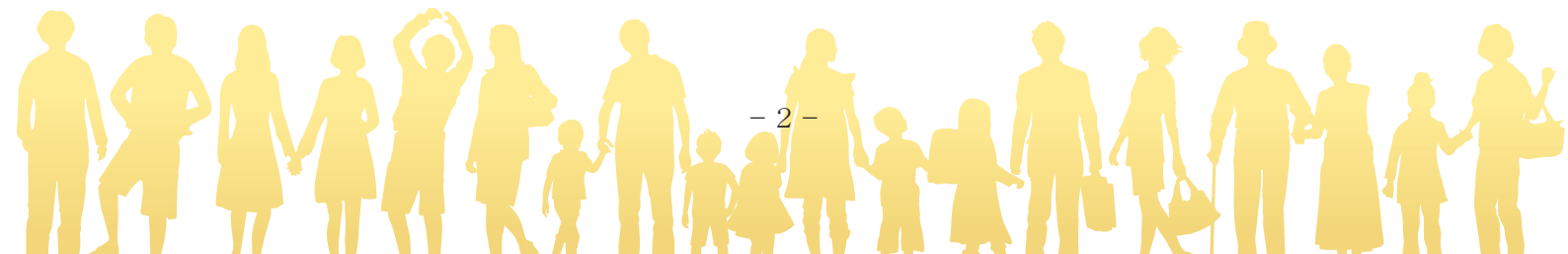
このような現状を打開し、人口減少に歯止めをかけるとともに、活力と魅力ある萩市を次代に引き継いでいくため、本年6月に「萩市基本ビジョン」を定め、市民と行政が一体となってこれからのまちづくりを進めていくこととしました。

■目指すひとづくり

萩市には、明治維新に活躍した多くの人材を輩出した誇るべき歴史があります。一方、現在は、こうした過去の歴史に頼る意識もあり、時代が大きく変化する中、新しいことや変えることに踏み出せない閉鎖的、保守的な側面も見受けられます。

こうした保守的な風潮を突き破り、活力と魅力あるまちづくりを進めるためには、新たな発想で、新しい時代をこじ開けようとする人材、広い視野をもって世界で羽ばたいていこうとする人材、さまざまな人と関わりながら自ら社会のために貢献しようとする人材が必要です。

そのため、市民一人ひとりがこれまでの意識や考え方を一旦ゼロに戻し、これからの



時代、何を目指すべきか、人や社会のために何ができるのか、自ら考え、自ら行動を起こそうとする意識を持つことが必要となります。

そこで、一人ひとりが今後の生き方、学び方を考えるきっかけとなるよう、萩市のひとづくりの指針として、基本理念、目指すひとの姿、ライフステージに応じた基本方針を次のとおり掲げます。

この萩市の人材育成が、「萩市で子どもを育てたい」、「萩市で学びたい」と思われ、「ひとづくりのまち・萩」として新たな魅力となり、「住みよいまち・萩」「住みたくなるまち・萩」となるよう、市民と行政が一体となって、これからの新しい時代を切り拓くひとづくりを進めます。

基本理念

新しい時代を切り拓くひとづくり

目指すひとの姿

創造

広い視野を持ち、新たな視点から考える人

挑戦

現状に甘んじることなく、未来に向かって果敢に挑む人

協働

人との関わりを大切にし、社会のために共に行動する人

ひとづくりの基本方針

幼 児 期

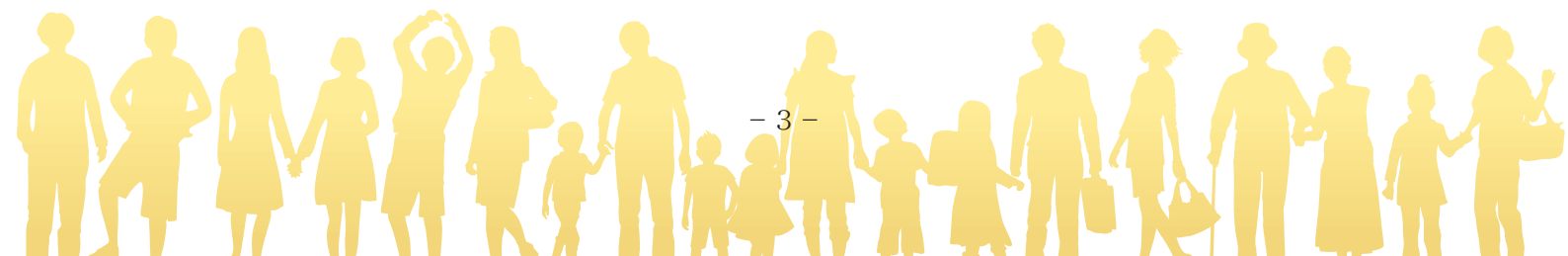
- 心身ともにたくましく、人のやさしさを感じる子どもの育成
- 創造力豊かな子どもの育成

青少年期

- ふるさとに誇りと愛着を持つ青少年の育成
- 高い志と進取の気概を持つ青少年の育成
- 人や社会と積極的に関わる青少年の育成

成 人 期

- 地域づくりに積極的に関わるひとづくり
- さまざまな分野で活躍するひとづくり
- 知恵や経験、技能を社会に生かし、次代につなぐひとづくり



第3章 ひとつづくりの基本方針と施策の方向

幼 児 期

幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期であり、心身ともに大きく成長することから、幼児期からの働きかけや体験などがひとつづくりにおいて大切になります。

この時期の子どもと関わる大人は、愛情を持って接することや、子どもに主体性を持たせて見守ること、さまざまな体験をさせることなどが求められます。

心身ともにたくましく、人のやさしさを感じる子どもの育成

核家族化や少子化の進行、保護者の共働きにより、親子の関わりや子ども同士のふれあいが少なくなっている傾向が見られます。

そのため、子どもの主体性を生かし、親子のふれあいや子ども同士の交流、さまざまな自然体験などを通じて、心身ともにたくましく、人のやさしさが感じられる子どもの育成を推進します。

創造力豊かな子どもの育成

技術革新の進展により、今後10年～20年後には日本の労働人口の相当規模が技術的には人工知能やロボット等により代替できるようになる可能性が指摘されている一方、これまでになかった仕事が生まれることが考えられます。

そのため、新しい時代に対応できる人材を育成するために、将来、自分で考え、新たな発想を生み出すことができるよう、幼児期から創造力豊かな子どもの育成を推進します。



施策の方向 1 家庭教育への支援

親（保護者）が、社会で生きるための基本を子どもに体得させる家庭教育は、子育ての原点です。

近年、家庭環境の多様化に伴い、子育てに不安を感じる家庭が増えていることから、安心して親子がふれあい、絆を深めることができるよう、地域全体で親子の育ちを支える取り組みを推進します。

また、子育てには親（保護者）の愛情が大切であることから、子育てに関する情報や学習機会を提供するなど、子どもたちが親（保護者）の愛情をいっぱい受けて育つことができる環境づくりを推進します。

施策の方向2 外遊びの推進

子どもは多様な遊びを通して成長します。特に、外遊びは自然とのふれあいや子ども同士の交流等を通して創造力と豊かな感性の芽生えが培われます。

そのため、自然豊かな萩の特性を生かし、子どもが安心して自然の中でのびのびと遊ぶ、外遊びを推進します。

施策の方向3 読み聞かせや読書活動の推進

子どもは、読み聞かせや自分で読書することを通じて、未知の世界を知り、想像を働かせることで、日常の直接体験では得られない発見や出会いに触れることができます。その体験によって視野が広がり、豊かな感性が育まれます。

このように「読書活動」は、さまざまな世界に触れることで将来への夢や希望に心をときめかせるなどの喜びを見いだすことができ、子どもの成長に欠くことのできない重要な役割があることから、健全な成長を支えるために、読み聞かせや読書活動を積極的に推進します。

施策の方向4 芸術・文化に触れる機会の創出

創造力を育むためには、芸術や文化に関する活動や、優れた芸術や文化に触れる機会を持つことが大切です。

子どもたちが、将来豊かな感性を身につけることができるよう、優れた芸術・文化に触れることを推進します。

青少年期（小学生・中学生・高校生）

小学生・中学生の時期は、家族の一員、社会の一員として身に付けるべき基本を習得した上で、児童生徒が各自の興味・関心、能力・適性等に応じて基礎的能力を培い、その後の学習や職業・社会生活の基盤を形成する段階です。

高校生の時期は、義務教育を発展させて社会に参画し自立して生きていく能力を養い、将来の進路を決定する段階です。

この時期の子どもと関わる大人は、自分の仕事や地域活動で頑張る姿などを子どもに自信を持って見せることなど、積極的に子どもに関わるのが求められます。

ふるさとに誇りと愛着を持つ青少年の育成

青少年は、近い将来、変化の激しい社会の中で生き抜いていかなければなりません。そのためには、自分のアイデンティティ※⁴を確立することが大切です。自分がどのようなまちで生まれ、どのようなまちで育ったかを知り、ふるさとを愛する心を持つことがアイデンティティの確立につながります。

そこで、進学や就職等で一旦萩市を離れても、ふるさとに戻ってきて貢献する人、全国や世界で活躍し、ふるさとに希望と活力をもたらす人に成長するように、ふるさとの魅力を知り、誇りと愛着を持てる教育を一層推進します。

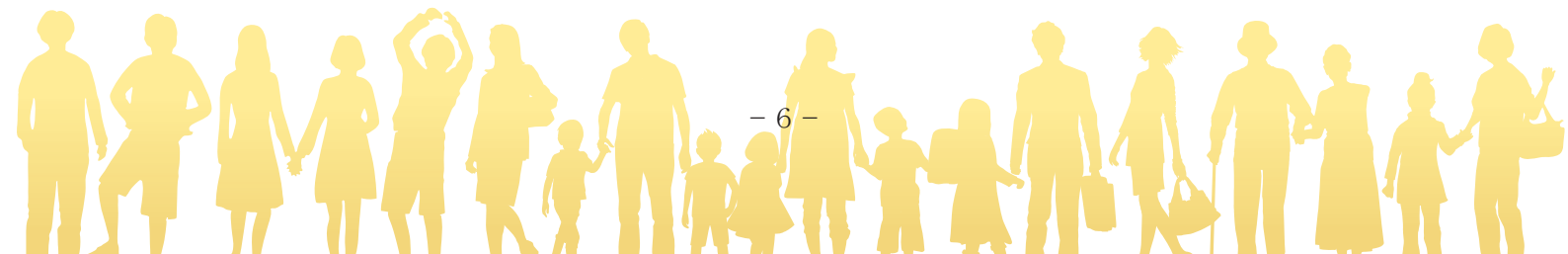
※4 アイデンティティ…自分らしさ、自己肯定感、個性。

高い志と進取の気概を持つ青少年の育成

「志を立てて、以って万事の源となす」と説かれた松陰先生のように、新しい時代を切り拓いていくためには、高い志を抱くことが必要です。

社会情勢がめまぐるしく変化している中、学校で教わったことを覚えるという従来の学びのスタイルから、自分で学びたいことを選び、自ら学ぶ姿勢や答えのないものから答えを導き出す能力などが求められています。

そのため、自分にふさわしい生き方を実現しようとする意欲や態度、能力を育成する志教育を推進するとともに、従来の慣習に拘らず、進んで新しいことにチャレンジしようとする本人の主体性を引き出し、個性を伸ばす教育を推進します。



人や社会と積極的に関わる青少年の育成

人間関係の希薄化が進み、人や社会に対する無関心な人が増えており、将来、地域社会の維持が困難になることが懸念されます。

青少年期から地域の伝統文化を継承する活動や子ども会活動などの地域活動、さまざまなボランティア活動へ参加することで、積極的に人や社会と関わりを持ち、将来、人の役に立とう、地域に貢献しようという心を醸成します。また、人や社会との関わりの中で、自分とは異なる価値観を受け入れる広い心を醸成します。

施策の方向 1 可能性に挑戦するために必要な知・徳・体の育成

- 子どもたち一人ひとりの能力や適性に応じたきめ細やかな教育、個性を伸ばす教育を推進するとともに、自ら学び、自ら考え、自ら課題解決できる力を育成します。
- 創造力豊かな青少年を育成するため、さまざまな分野で活躍している一流の人から学ぶ機会や優れた芸術・文化に触れる機会をつくるなど、青少年が刺激を受け、好奇心や感性を高める取り組みを推進します。
- 豊かな心を育むため、規範意識や人への思いやり、コミュニケーションを通じての人間関係を築く力、困難を乗り越え物事を成し遂げる力、共助の精神等の育成を推進します。
- 生涯にわたってたくましく生きるために必要な健康の増進や体力の向上を推進します。



施策の方向2 ふるさと学習、体験活動、キャリア教育※5の推進

- 地域の優れた人材や歴史、文化、自然を有効活用し、ふるさとを学び、誇りと愛着を育てるふるさと学習を推進します。
- 地域活動やお祭り等の地域行事、ボランティア活動への参加を推進し、ふるさとを愛する心や地域に貢献しようという心を醸成します。
- 地域の人的・物的資源を活用した体験活動を推進し、自然や科学への興味、地場産業への関心、伝統文化への関心等を高めます。
- 若者が地元に着定するため、地元の企業を知る機会を提供するほか、志を実現するための学びとして、社会で求められる専門的な知識を学べる機会を提供するなどキャリア教育を推進します。

※5 キャリア教育…一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を促す教育。

施策の方向3 地域教育力の向上

- 「地域の子どもは地域で育てる」をスローガンに、コミュニティ・スクール※6を核とした地域と学校、保護者が連携、協働し、地域総がかりで子どもの学びや育ちを支える取り組みを推進します。
- 子どもたちや地域の実情に応じて、創意と活力に満ちた特色ある学校づくりを推進します。
- 世代間交流を通じて、さまざまな体験の機会を提供し、子どもの自主性・創造性・社会性を育成します。

※6 コミュニティ・スクール…学校と保護者や地域がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める仕組み。



施策の方向4 **グローバル※7 人材の育成**

グローバル化が急激に進展している中、視野の広さやさまざまな人と関わり合う力などが求められています。

そのため、豊かな語学力、コミュニケーション能力、情報発信力、主体性・積極性を身に付ける教育を推進するとともに、さまざまな体験活動や交流活動など子どもたちの視野を広げる取り組みを推進し、グローバルに活躍できる人材を育成します。

※7 グローバル…世界的な規模であるさま。国境を越えて、地球全体にかかわるさま。

施策の方向5 **市内高等学校の魅力化への支援**

近年は、少子化の進行による市内中学卒業者数の減少や進路選択の多様化に伴い、市内の高等学校への進学者数は減少傾向にあります。

市内だけでなく、市外の中学校の生徒からも萩で学びたいと思われるような高等学校となるよう、市内高等学校の魅力化に向けた取り組みを支援するとともに、萩市としてできることに取り組みます。



成人期 (大学生、社会人、高齢者)

成人期は、社会的に自立し、家庭や職場、地域での責任を果たしていく時期で、地域を支える中心的存在になります。

近年の行政ニーズの多様化・複雑化により、行政だけで全てのニーズに対応することが困難になってきていることから、地域づくりや産業の振興、地域福祉の増進などさまざまな分野で主体的に関わり、貢献できる人材が求められます。

地域づくりに積極的に関わるひとづくり

活力ある地域社会は、個人の能力を高めるとともに、さまざまなコミュニティにおける人と人とのつながりや支え合いにより実現されます。

そのため、市民一人ひとりが社会の一員として地域のために自分ができることを自分の意思で積極的に行動する人材の育成を推進します。

さまざまな分野で活躍するひとづくり

活力と魅力ある萩市として次代に引き継ぐためには、地場産業の担い手や起業家など産業分野で活躍する人材をはじめ、文化・芸術・スポーツなど幅広い分野で活躍する人材が必要です。

そのため、伝統的な技術を継承する若者や若手後継者の育成を支援するとともに、若年層に対する学び直しや起業教育、生涯学習、スポーツ活動を推進し、さまざまな分野で活躍する人材の育成に取り組めます。

知恵や経験、技能を社会に生かし、次代につなぐひとづくり

超高齢社会の到来により、地域には人生での豊かな知恵や経験、技能をもった人が多くいます。その知恵等を社会に生かし、持続可能で活力ある地域社会を構築していく必要があります。

そのため、市民一人ひとりが生涯にわたって生きがいを持って暮らすことができる環境づくりを推進するとともに、地域の活性化に貢献するため、これまでに培ってきた知恵等を社会の活動に生かす人材の育成に取り組みます。また、その知恵等を次代を担う若者に継承できる人材の育成を推進します。



施策の方向1 地域コミュニティ活動の推進

- 元気あふれる地域コミュニティ活動を推進し、市民一人ひとりが「行政に頼らず自分たちの地域は自分たちでつくろう」という意識になるような機運の醸成を図ります。
- これまで培ってきた知恵や経験・技能を地域活動やボランティア活動へ生かすことができる環境づくりや多様な世代間交流の場を設けるなど、その知恵等を次代へつなぐことができる環境づくりを進めます。

施策の方向2 社会人の学び直しの推進

- 自己のスキルアップや自立のための資格取得ができるよう、リカレント教育^{※8}や市外の企業との交流、異業種交流など、さまざまなニーズに対応した学習機会を提供します。
- 各分野で活躍している人やさまざまな経験を有する人の話を聞く機会、新しい体験ができる機会を提供するなど、自ら学びたいと思えるような刺激を与える場を作ります。

※8 リカレント教育…社会人になってからも新たに必要とされる知識・技術を習得するため教育機関に戻り再教育を行うこと。学び直し。

施策の方向3 地場産業の担い手育成の支援

- 若い世代から、ものづくりなどに興味を持つ機会を提供し、次代を担う企業人材の育成を支援します。
- 地域の風土や市民生活の中で培われ受け継がれてきた伝統産業について、将来を担う若手技術後継者の育成を支援します。

施策の方向4 起業家育成への支援

産業の担い手不足が深刻化する中、産業振興による活力を目指すには、新たな産業、新たな企業を創出することが必要です。

そのため、新しい夢に向かって起業・創業しようとする人々を応援するため、さまざまなニーズに対応した学習機会を提供するなど、起業教育を支援します。



施策の方向5 生涯学習等の推進

市民一人ひとりの多様な個性・能力を開花させ、人生を豊かにするとともに、生涯にわたって主体的に学び、さまざまな力を養い、その成果を社会に生かすことができるよう、地元の大学や各種団体と連携したさまざまな学習機会の提供やスポーツ活動の推進など、ニーズに応じた生涯学習等を推進します。

施策の方向6 地域共生社会づくりの推進

地域に住む人が相互に支え合い、様々な活動に積極的に参加していくことによって、誰もが住み慣れた地域で自分らしく安心して生活を送ることができる地域共生社会づくりを推進します。



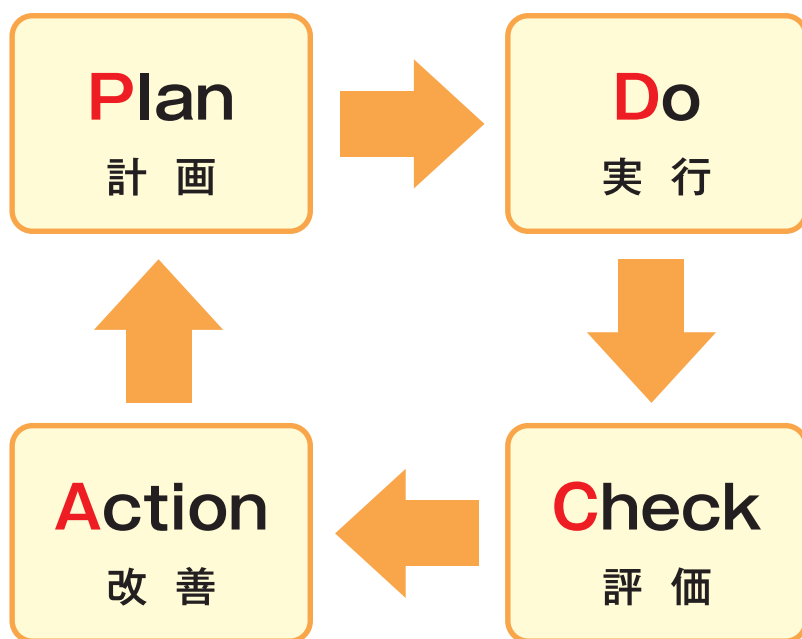
第4章 構想の着実な推進に向けて

構想の着実な推進のためには、進行管理を行うとともに、進捗状況やその成果について検証し、施策や取組内容等の見直しを行うことが必要です。

各施策を実施するに当たっては、PDCAサイクルの考え方にに基づき、構想に基づく施策の実施状況や効果について点検・評価を行い、より効果的な構想の実現のために施策内容の見直し・改善を行い、翌年度以降の施策の展開に反映します。

そのため、市民と行政で構成する「萩市ひとづくり構想推進委員会（仮称）」を設置し、本委員会が構想全体の進捗状況をチェックするとともに、本委員会における意見を施策の内容の見直し・改善などに反映します。

PDCAサイクルのイメージ



PDCAは、「Plan＝計画」「Do＝実行」「Check＝評価」「Action＝改善」の4つの英単語の頭文字で、4つの段階を循環的に繰り返し行うことで、仕事を改善・効率化する方法とされています。

